

上越市創造行政研究所ニュースレター

# 創造行政

上越市創造行政研究所は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。市政における重要課題の解決や理想像の構築に寄与し、地方自治体としての政策形成能力を高めるため、総合的・中長期的・広域的な視点による調査研究などを行っています。このニュースレターは、それらの活動を一部ご紹介するほか、市の公式見解に限定せず、上越市のまちづくりを考える上で多くの方々と共有したい課題等をお伝えするものです。

Joetsu city Policy Research Unit

## No.41 Jul. 2018

関田山脈からの風景

P2-4

コラム

上越市の特徴を探る

File 5 植生

P5-7

開催報告

第5回信越県境地域づくり交流会

ロングトレイルと地域づくり

P8

活動紹介

# 上越市の特徴を探る???

「上越市の特徴は何ですか?」という問いに対して、「目立った特徴はない」あるいは「何でも揃っていることが特徴だ」という声がよく聞かれます。

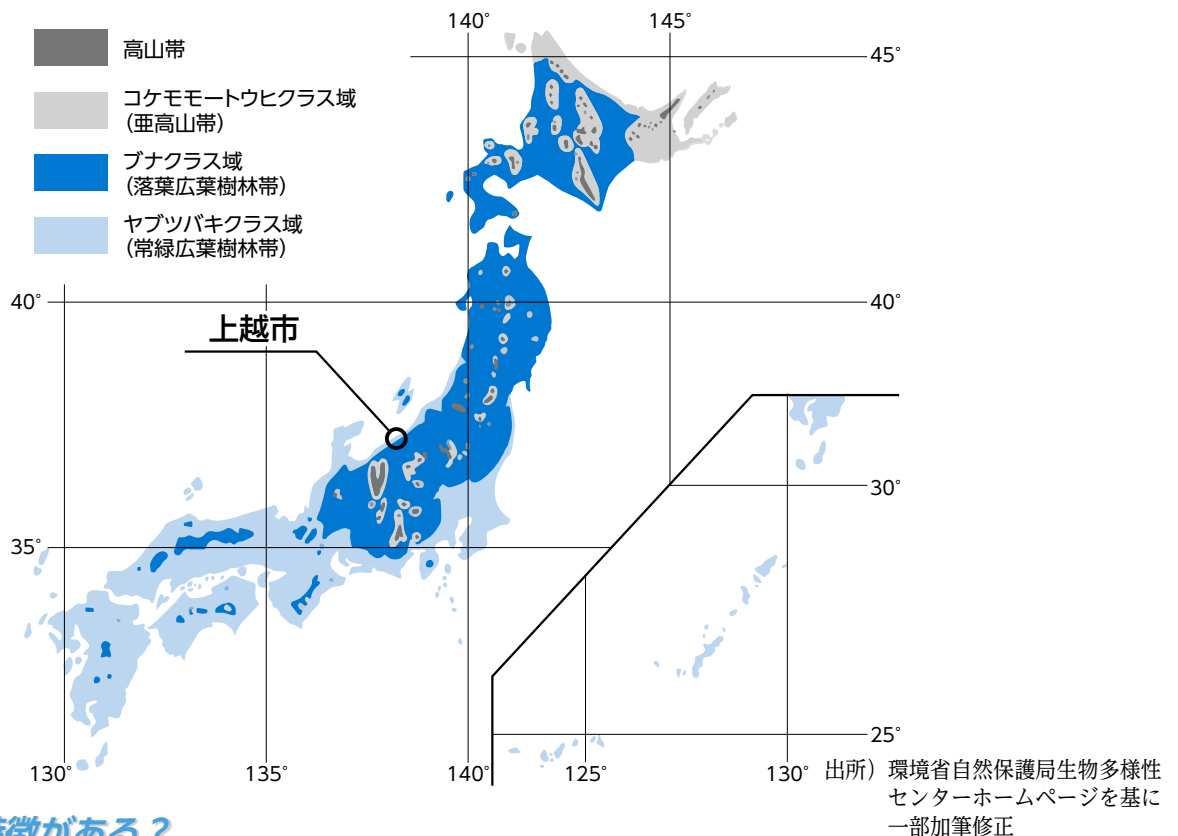
## File 5 植生

上越市は、海、山、大地などの自然豊かな地域といわれますが、全国的にみるとどんな特徴があるのでしょうか。自然環境の豊かさを語る場合には、市町村の境界にとらわれず広域的な視点で眺める必要があります。

ここでは、自然環境の中でも植生（森林）に絞って、その特徴をご紹介します。

### 植生の多様さは国内有数

日本の植生分布



### ▶▶▶ どんな特徴がある?

日本の植生は大きくは4つに分類されますが\*、上越市は、沿岸部を中心とする常緑広葉（照葉）樹林帯と山間部を中心とする落葉広葉樹林帯の境界に位置するほか、近隣市町村の標高の高い地域では、亜高山帯や高山帯の植生も見られることから、富山県と並び多様な植生を楽しむことができる、国内有数の地域ということもできます。

例えば上越市は、日本海側の雪の多い地域に自生するユキツバキ、温暖な地域に多いヤブツバキ、さらには両者の中間種であるユキバタツバキが分布する数少ない地域ともいわれています。ツバキは上越市の花にも指定されています。

\* 環境省自然保護局によれば、日本の植生は、高山帯、コケモートウヒクラス域、ブナクラス域、ヤブツバキクラス域に大別される。

### ▶▶▶ なぜ生まれた?

上越市は、その周辺地域も含めると、海、砂丘、平野、丘陵、高山などの多様な地形がコンパクトにまとまった地域であり、高低差が大きいことに加え、低標高でありながら大量の雪が降ります。このことが、比較的身近に多様な植生を見ることができる要因となっています。



果たして本当にそうでしょうか。「ここでは、上越市の特徴と言われるもののうち、ある程度客観的に説明できるものを取り上げ、その程度や因果関係を簡単にご紹介します。「そのくらいは知っている」「その背景は知らなかった」「初耳だ」など、様々な感想があると思いますが、コーヒープレイク的に読んでいただき、まちの特徴を端的に理解する、まちを自慢する、まちづくりを考える、などの場面でお役に立てば幸いです。

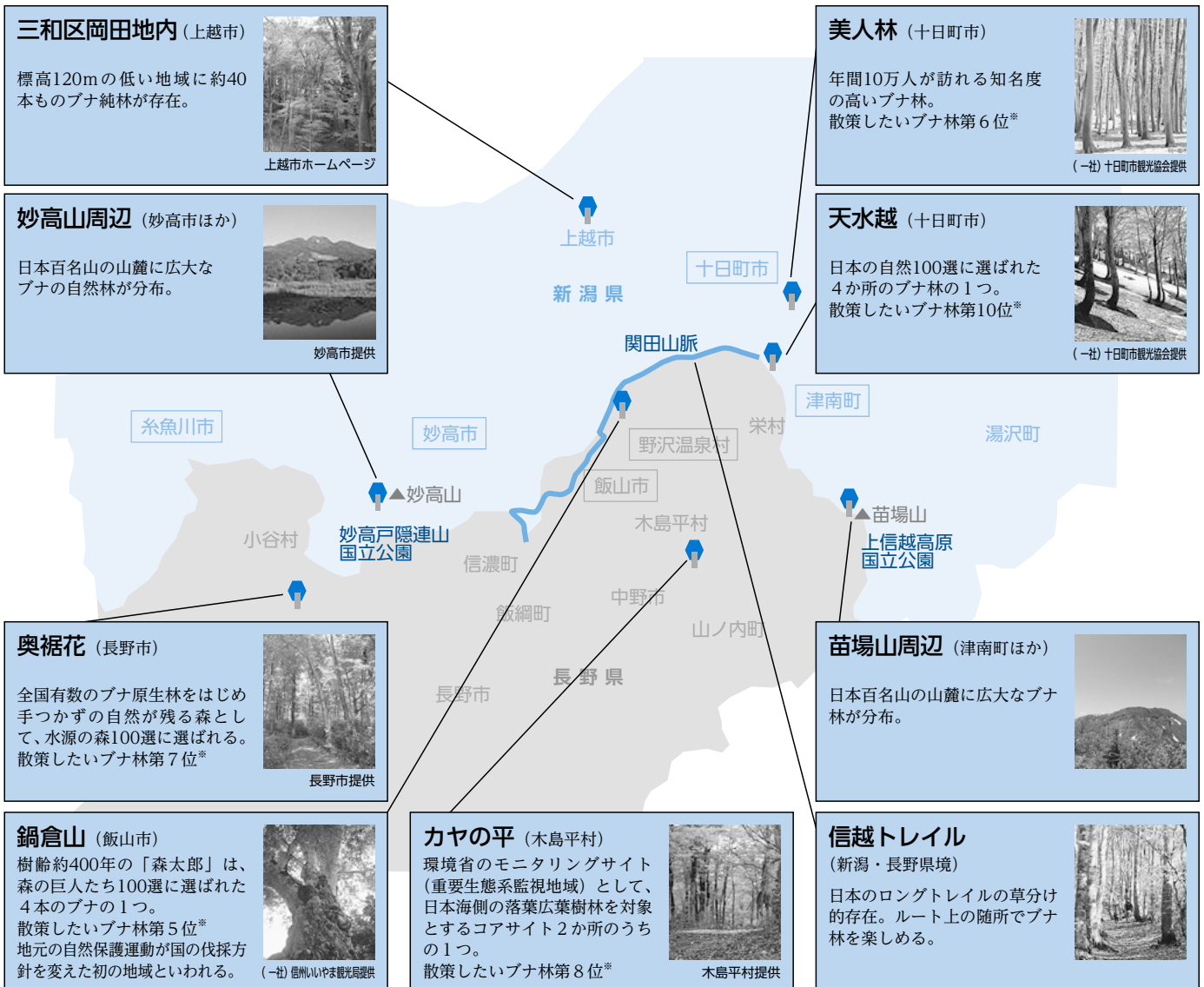
## 身近なところに“ブナ林”がある？！

### ▶▶▶ どんな特徴がある？

多雪地帯を特徴づける森林としてブナ林があげられます。ブナの木は千葉県と沖縄県を除く全国で見ることができますが、ブナ林の中心的な分布は北海道渡島半島から本州中部までの日本海側の山地部に見られ、新潟県も国内有数の分布地です。中でも、雪が多い新潟県と長野県の県境付近では、ブナを市町村の木に選定する自治体が6つもあります。

ブナ林といえば、世界自然遺産の白神山地が有名ですが、ここでは人為的な開発が入らず原始的なブナ林が広大に残ることが評価されています。一方、上越地域やその周辺のブナ林は、それほど規模は大きいとはいえませんが、他の樹木が混じることが少ない、“The ブナ林”を比較的身近な場所で見ることができ、その多くは地域の住民が積極的に利用してきた里山のブナ林であることが特徴ともいえます。

### 上越市周辺の象徴的なブナ林の例 (□囲みは、ブナを市町村の木としている自治体)



\* 日本経済新聞2018.5.12【日経プラス1】輝く新緑 散策したいブナ林ランキング

## ▶▶▶ なぜ生まれた？ その結果は？

### 世界有数の豪雪地帯

上越市やその周辺地域は、全国でも有数の豪雪地帯です。例えば、積雪深の日本記録をみると、人の住む所では上越市板倉区柄山の818cm、旧国鉄では長野県栄村・森宮野原駅の785cm、気象台等がある都市の中では上越市高田の377cmなどがあります。これだけの雪が降る場所で、これだけ多くの人が定住している地域は、国内のみならず世界でも稀といわれています。



### 特徴的なブナ

ブナは、豪雪に対して強い樹木であり、雪の重みにも幹が寝ずに根だけが曲がって直立する傾向があります。また、太平洋側の積雪の少ない地域のブナ林では、ミズナラなどの混合林が多く見られますが、日本海側の積雪の多い地域であるほどブナの純林が発達し、他地域では生育できない低標高地域でもブナが生育することが知られています。



ちなみに、日本海側のブナ林の周辺に生育する植物も、雪に適応したものが多く見られます。例えばユキツバキは、樹高が低く、枝と葉が柔軟で地を這うように生育する性質を持つため雪の重みに耐えることができますし、豪雪地帯のチシマザサは根が曲がっているため「根曲がり竹」とも呼ばれています。

### ● 生活用具の材料として



豪雪地帯で生育できるブナ林は、雪国に住む人々にとって、身近な里山の樹木でした。

ブナは柔らかいために曲がったり腐りやすい性質があり、材としては使いづらいとされています。しかし、ブナ以外の樹木が自然に育ちにくい豪雪地帯では、ブナの性質を知り上手く利用していました。薪炭材としての利用だけでなく、雪の重みに強い性質や乾かすと硬く丈夫になる性質を利用して、家屋の梁や農具の柄、机・椅子などにも使われていました。

### ● 緑のダムとして



森林は、「緑のダム」として、河川へ流れ込む水の量を安定させる働きを持っています。特にブナ林の林床には、腐葉土が厚く堆積しスポンジのようになっており、豪雪地帯で大量の雪解け水を蓄えることのできる保水力は、かなりのものともいえます。

また、ブナ林の土壌を通過した綺麗な水は、この地域のおいしいお米や酒づくりにつながります。

### ● 動植物を育む生態系として

ブナ林は豊かで多様な動物相を育むなど、生態系の基盤として重要な役割を果たしています。

また、地下水や河川を通して海藻やプランクトンを育てる栄養素を海まで運び、海の幸も育みます。

春になるとこの辺りは山菜採りが盛んとなりますが、豪雪地帯のブナ林では、柔らかく良質な山菜が採れます。

このほか近年では、エコツーリズム、森林セラピーなど、観光や癒しの場所としても、ブナ林は注目されています。



かつてブナは、「役に立たない」木として、全国的に伐採され、スギなどの植林が進められました。人里近くにもかかわらずこの地域にブナ林が残っているのは、豪雪により開発が進まなかった面もありますが、雪国の生活の中で、ブナ林が果たす役割の重要性を実感していた地域があったことも理由の一つといえるでしょう。

### 里山としてのブナ林

地域資源の中には、上越市だけではその成立過程や特徴を語り切れないものが数多くあります。そうした地域資源は、上越市限定で考えると珍しいものではないかもしれませんが、共通の特徴を持つ周辺エリアで考えると、実は全国でも珍しい特徴を持っている地域といえる場合もあります。

市町村を越えて存在する森林は、まさにその一例であると思います。少し足を伸ばせば、全国的にみて恵まれた自然に接することができる上越市は、実はとても贅沢な地域なのだあらためて感じます。(太田 栄里)



# 信越県境 地域づくり交流会

まなぶ・つながる・はじまる  
(愛称：はしっこア)

## 開催報告

「はしっこ」だけど、実は「まんなか（コア）」——長野県と新潟県の県境、「信越県境」をはさむ国内有数の豪雪地域は、中山間地域や地方都市ならではの共通課題を数多く抱えています。魅力的な地域資源や意欲的な地域づくりの取組みも数多く存在します。

この地域が将来にわたり豊かであり続けるためには、歴史的にもつながりの深かった近隣市町村の人々がお互いに関心を持ち、境界を越えて交流・連携することが大切と考え、平成27年度から開催しています。

第5回を迎えた今回は、当研究所が主に企画運営を担当し、「ロングトレイル」をメインテーマとして長野県栄村で開催しました。

### 開催概要

開催日：平成30年6月29日（金）・30日（土）  
会場：栄村役場かたくりホール  
中条温泉トマトの国 など  
(長野県下水内郡栄村)  
参加者数：約90人

主催：一般社団法人雪国観光圏、信越県境地域づくり交流会実行委員会  
共催：信越9市町村広域観光連携会議（信越自然郷）  
上越市創造行政研究所  
協力：栄村、長野県北信地域振興局  
後援：新潟県、地域づくりネットワーク長野県協議会  
一般社団法人信州いいやま観光局、公益財団法人八十二文化財団  
信州大学学術研究・産学官連携推進機構  
愛知大学三遠南信地域連携研究センター

### プログラム

メインテーマとした「ロングトレイル」や歩く旅の意義と現状について参加者と共にまなび、登壇者や参加者同士の交流により異業種・広域でつながり、今後何がはじまることを予感させる、そんな内容がぎゅっと詰まった幅広くも奥深い2日間となりました。

#### 第1部 まなぶ

29日（金）

##### 開会・趣旨説明

13:30  
～14:00

主催者である雪国観光圏の井口代表、栄村の森川村長からのご挨拶に続き、本交流会の趣旨説明を行いました。

14:00  
～14:50

##### 基調講演 「歩く観光の潮流とロングトレイル」

**講師** 木村 宏 さん 北海道大学観光学高等研究センター特任教授・NPO法人日本ロングトレイル協会常任理事

歩く旅に対する歴史的な潮流、様々なロングトレイルの事例、地域づくりとの関係など、盛りだくさんの内容でありながら、会場の笑いを誘う軽妙なお話をいただきました。

15:00  
～16:45

##### パネルトーク 「信越県境エリアとトレイルの魅力語る」

**パネリスト** 大西 宏志 さん (信越トレイル) NPO法人信越トレイルクラブ事務局長  
桑原 大 さん (妙高戸隠連山国立公園) 環境省妙高高原自然保護官事務所自然保護官  
田中 正人 さん (スノーカントリートレイル) スノーカントリートレイルコースディレクター  
相澤 久美 さん (みちのく潮風トレイル) NPO法人みちのくトレイルクラブ理事

各地域でトレイルに関わる方々からの活動紹介があり、今後の構想や課題も含めて率直にお話をいただきました。また、会場からの意見も交えながら、この地域やトレイルが持つ様々な魅力について共有する機会となりました。



#### 第2部 つながる

17:00  
～20:00

##### 情報交換会

参加者が一言ずつ自己紹介をした後、森宮野原駅内の交流館へ移動して懇親会を行いました。登壇者も交えながら地域や業種の異なる参加者同士での交流となりましたが、地元食材を使った手料理や地酒、アットホームな会場の雰囲気も手伝って、皆さんの会話も弾みました。



#### 第3部 はじまる

30日（土）  
9:00  
～12:00

##### ディスカッション 「ロングトレイルと地域づくり」

4つのグループに分かれて前日の振り返りをした後、講師の木村さんによる進行の下、「この地域のトレイルがモデルであり続けるためには？」などのテーマで話し合いをしました。

12:30  
～15:30

##### エクスカーション

栄村小滝集落の古民家で地元食材の昼食をいただいた後、地元の方々が復活させた小滝古道をガイドの方とともに散策しました。7年前からの震災復興に取り組む集落の皆さんの力強さと自然の奥深さを強く感じました。





◆ ロングトレイルの概要と整備状況

- ・ ロングトレイルは、歩く旅を楽しむために整備された道のことをいいます。このトレイルでは、山の頂上を目指す一般的な登山とは異なり、山の麓をめぐり、自然、文化、歴史などをじっくりと楽しみながら歩きます。
- ・ 海外での歴史は古く、アメリカには自然保護運動の流れをくむ延長5,000kmのロングトレイルなどがあるほか、イギリスには労働者の歩く権利や健康増進を端緒とするフットパス、スペインには聖地巡礼をルーツとする古道などがあります。
- ・ 日本国内のロングトレイルは、1970年頃から全国的に整備された「自然歩道」や、2004年に世界遺産となった「熊野古道」などもその一種とみることができますが、ロングトレイルに関する書籍や雑誌、映画などが増え、注目されるようになったのはここ5年くらいの間であり、その草分け的存在となったのは2008年に全線開通した「信越トレイル」といえます。
- ・ 現在、国内のロングトレイルの数は、日本ロングトレイル協会に加盟しているものだけでも25、その他未加盟のものや開通予定のものを含めると、少なくとも50以上あるとみられます。

日本のロングトレイルの一例

熊野古道 (三重・和歌山・奈良)



平安時代からの歴史を持つ熊野三山への参詣道。一部は世界遺産に登録。

北根室ランチウェイ (北海道)



牧場や酪農家の庭先などを歩く約70kmの道のりをほぼ個人の手で整備。

みちのく潮風トレイル (青森～福島)



沿岸部を中心とする全線900kmが今年度中に完成予定。震災復興の道でもある。

◆ 上越市近辺 (信越県境あたり) の整備状況

上越市近辺 (新潟県と長野県の県境付近) には、草分け的存在から、今年開通、現在計画のものに至るまで多様なロングトレイルが集積する国内でも有数の地域といえます。



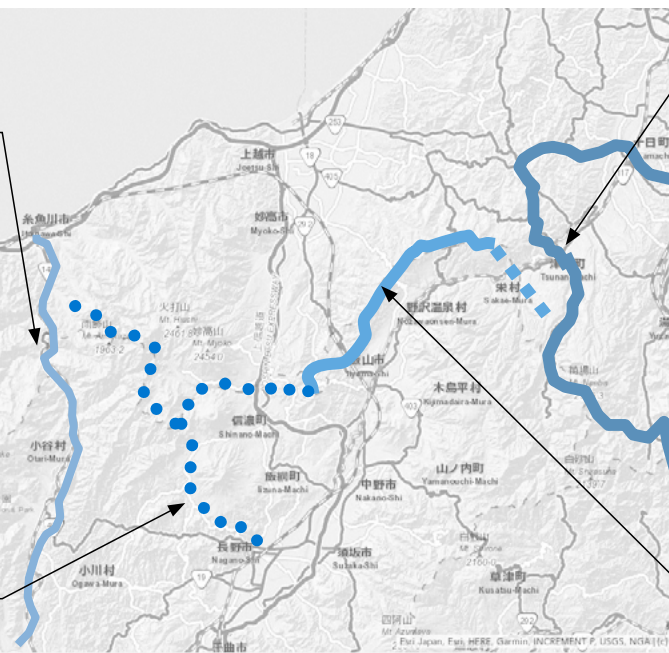
塩の道トレイル

糸魚川市から松本市までの全長120km。日本海と内陸部を結ぶ「塩の道」としての歴史あるルートで、北アルプスなどの眺望とともに歩く。事務局は小谷村商工会。



妙高戸隠連山国立公園内のトレイル

火山・非火山が織りなす多様な自然環境や妙高・戸隠など山岳信仰の歴史を持つ国立公園内に計画。環境省が事務局となり、東西と南北のT字ルートについて現地調査などを実施中。



スノーカントリートレイル

世界有数の豪雪地帯の山々や市街地をめぐる全長307kmのルートで、今秋に全線開通予定。プロアドベンチャーレーサーなどが整備に関わる。「ぐんま県境稜線トレイル」とも接続予定。



信越トレイル

長野・新潟県境の関田山脈に延びる全長80km。国内ロングトレイルの草分け的存在で、全線開通から10年を迎える。NPO信越トレイルクラブが中心となり関係機関やボランティアとともに管理運営。苗場山までの延伸計画あり。

(c) Esri Japan | Esri Japan, Esri, HERE, Garmin, INCREMENT P, USGS, NGA

2日間にわたる交流会では、登壇者からロングトレイルに対する熱い思いが語られた後、参加者同士の活発なトークが繰り広げられました。これら登壇者や参加者の声をもとに、ロングトレイルに関する基礎知識として編集し、皆さんにご紹介します。

## ◆ ロングトレイル・歩く旅の魅力（一例）

ロングトレイルや歩く旅に注目が集まる理由は多岐に渡ります。歩く人の立場と（歩く人を受け入れる）地域の立場から、それぞれにとっての魅力を整理してみました。（できる限り登壇者や参加者の言葉を引用しました）

<p>◆ <b>スポーツ・レジャー、健康づくりの一環</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手軽な余暇活動やスポーツ（ウォーキングは国民が実践する種目の上位に位置）</li> <li>・自分のペースでゆっくりと歩くことができ、目的地にたどり着く達成感を得やすいこと</li> <li>・歩くマニアの心をくすぐること（境界マニアなど）</li> <li>・身体的・精神的効果（心身のリフレッシュ）</li> <li>・山で遊ぶことへの寛容さ、束縛から解き放たれる自由さ</li> </ul>	<p>◆ <b>人とのふれあい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレイルのガイドやボランティアの方々との会話</li> <li>・時々すれ違う地域の人との交流</li> <li>・自然に包まれ純粋な気持ちになった人たちとの交流</li> <li>・（上記を通じた）温かさや活力の獲得</li> </ul>
<p>◆ <b>自然・歴史とのふれあい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に表情が変わる森の中での、様々な動植物との出会い・発見</li> <li>・地域の歴史の実感（峠を挟んだ人々の暮らしや交流に思いを馳せること）</li> <li>・（上記を通じた）地域の価値の再発見</li> </ul>	<p>◆ <b>自己との対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩くことによる脳の活性化</li> <li>・思考時間の確保、自らを見つめなおす好機、瞑想装置</li> <li>・決然とした勇気の表明、不安な心をなくさめる癒し</li> </ul>

### 歩く人にとって

### 地域にとって

<p>◆ <b>経済活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興（トレイルへのアクセスや滞在時間増加に伴う宿泊・飲食・運輸サービスなどへの経済効果）</li> <li>・（上記に関連して）インバウンド対策＝歩く文化が浸透する欧米からの観光客への期待</li> </ul>	<p>◆ <b>環境保全、地域文化の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境に関心を持つ人々の増加</li> <li>・（上記を通じた）国土保全への貢献</li> <li>・もてなし文化の醸成</li> <li>・地域の価値を再発見する人々の増加</li> </ul>
<p>◆ <b>地域づくりの基盤となる人づくり</b>（シビック・プライド、ソーシャル・キャピタルの醸成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備を通じた愛着・誇りの醸成（“私のトレイル”という意識や愛おしさ）</li> <li>・中山間地域（端っこ）に対するポジティブ思考の醸成</li> <li>・歩く人との交流や、それに伴う愛着・誇りの醸成</li> <li>・（連携軸や目的が明確な）トレイルをきっかけとした地域間交流</li> </ul>	

歩く旅の対象者は、スポーツや自然を愛する一部の方々にとどまりません。ロングトレイルは、自然から得られる学び、心身のリフレッシュ、観光商品としての魅力はもちろん、自然や歴史、人々との触れ合いを通じて、自らを見つめなおし、地域の価値を再発見できる旅を提供します。そのように考えると、地域として関わることのできる範囲は大きく広がります。

歩く旅のスタイルは多様であり、その環境づくりにも様々な手法があります。ロングトレイルを歩いてみたい、関わってみたいと思うかは、個人の趣味嗜好によるところが大きいと思います。とはいうものの、ここでご紹介したロングトレイルの活発な動きやそれらを評価する国内外の動きがあることも事実です。特に人口減少時代の地域経営においては、これらを貴重な地域資源と認知し、異業種・広域による人的ネットワークをつなぎ、地域全体の発展を目指すのは自然な考え方でしょう。

もちろん、ロングトレイルの整備や維持管理には様々な課題があります。別の言い方をすれば、これらの取り組みには自然保護と活用の両立、観光地づくりと観光地域づくりの使い分け、官民の役割分担、地域内連携と広域連携、持続可能な運営体制など、あらゆる分野に共通する地域づくりのポイントが凝縮しています。人づくりと地域づくりを兼ね備えている点も特徴的です。地域づくりの教材としても、良質で示唆に富むテーマといえます。（内海、太田）

## 活動紹介

our activity report

今年度、当研究所が行っている調査研究、事業支援、研究交流、情報発信に関する取組みの中から、その一部をご紹介します。



### ■ 信越県境地域における地域資源調査 愛知大学からの支援を受けて共同研究を行っています。

昨年度まで、当研究所では可能な限り客観的な情報に基づいて上越市の特徴を説明するため、地域資源情報の取りまとめを行い、その一部はニュースレターのコラム「上越市の特徴を探る」でご紹介してきました。

この調査を進める中で、上越市の特徴は、近隣の豪雪地帯でかつて交流が盛んであった地域である、新潟県と長野県の県境付近に位置する地域と共通するものが多く、その一方で近隣にも関わらず異なる特徴を持つものも見えてきました。すなわち、上越市など一つの市町村では特徴を見いだすににくいものであっても、広域的に地域資源を捉えることによって、類似する地域資源が集積していること、ある



いは多様な地域資源がコンパクトにまとまっていることを特徴として説明できる可能性を感じました。

こうしたことから、今年度は、昨年度までの調査研究や「信越県境地域づくり交流会」で交流を深めた方々と研究チームを結成し、愛知大学からも支援を受けながら、信越県境地域における地域資源情報の調査を始めました。

この調査で蓄積された地域資源情報は、同じく信越県境地域の方々や学び、つながり、何かを始めるきっかけになることを目的とした「信越県境地域づくり交流会」においても、学びの材料として活用できるものとも考えています。また、逆に交流会の参加者から、各地域の情報をご提供いただくことによって、内容の充実が図られることにも期待しています。(太田)

### ■ 信越県境地域づくり交流会 今年度の開催予定についてご案内します。

今年度の地域づくり交流会は、年3回開催することとし、6月に開催した長野県栄村をはじめ、長野県飯山市、新潟県上越市で行う予定です。

学びの材料となるテーマにはこの地域の共通する資源を取り上げてきましたが、今年度は各回のメインテーマを1つに絞る一方、1泊2日のプログラムとすることによって、じっくりと学び、意見を交わし、より深い交流や何かが始まるきっかけとなるような構成としています。

もちろん部分参加は可能ですが、この会の良さを感じていただくためにも、ぜひ2日間通しての参加をお待ちしております。(太田)



#### 今年度の開催予定

##### 【終了】第5回「ロングトレイルと地域づくり」

開催日：2018年6月29日(金)～30日(土)

開催地：長野県下水内郡栄村

##### 【予定】第6回「スローフードと地域づくり(仮題)」

開催日：2018年9月28日(金)～29日(土)

開催地：長野県飯山市

##### 【予定】第7回「ミュージアムと地域づくり(仮題)」

開催日：2018年11月～12月頃

開催地：新潟県上越市

※ 詳細は決まり次第、ホームページなどで随時お知らせします。

## 編集後記

地域づくり交流会では、ハイカーの方からの言葉が印象に残っています。そもそも昔の人間は二足歩行ができたことに喜びを感じたはずで、「歩く」行為自体が楽しいことなのだ。このほかに多くの名言がありましたが、歩くことについてこれほど様々な思いがあるのかと、衝撃と発見の2日間でした。

会場をご提供いただいた栄村役場をはじめご協力いただいた多くの皆様方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。(太田)

## 上越市創造行政研究所ニュースレター 「創造行政」 No.41 Jul. 2018

発行：上越市創造行政研究所  
〒943-0804 新潟県上越市新光町1-8-11(上越保健センター2階)  
TEL：025-526-3490 FAX：025-526-6184  
E-mail：souzou@city.joetsu.lg.jp  
http://www.city.joetsu.niigata.jp/site/souzou-gyosei/  
★今年4月に事務所を移転しました。

ニュースレターは木田庁舎1階市政情報コーナー、各総合事務所でも閲覧可能です。また、当研究所のホームページにも掲載しています。